※令和４年度以降入学生用

学校番号	２１４

令和５年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	「数学Ⅰ」（啓林館）						
副教材等	「マスグレードα　数学Ⅰ＋A」（啓林館）						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

授業では、課題に対して自ら考える活動と周囲と協力して考える活動に取り組みます。
・「課題を理解する→結果を予想する→解決の構想を持つ→解決する→より良い方法を考える」を連続した過程として、それぞれの考えを発表することや議論することも取り入れます。

・問題集用のノートを授業用のノートと別に用意しなさい。
・指示された問題集の問題を自分で解いていきなさい。高校では答えが出せるかどうかと同等にどう考えたか、どこまで考えられたかが重要です。途中式や求め方も書くようにしなさい。
また、答え合わせを必ずしなさい。どこで間違ったのかを知ることも大切です。
・問題集用のノートは定期的に提出してもらいます。
時間をかけてていねいに取り組むことが、数学を理解するために必要な姿勢です。
・学習の予定は順序を変更したり、進度を早めたりする場合があります。

２　学習の到達目標

(a) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。
(b) 数学を活用して事象を論理的に考察する力，事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力，数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
(c) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

３　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解しているか ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に着けているか	数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し、統合的・発展的に考察する力、数学的な上限を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身につけているか	・数学の良さを認識し、積極的に活用しようとしたり、粘り強く考えて数学的論拠に基づいて判断したりしようとしているか？ ・問題解決の過程を振り返り、考察を深めようとしているか

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元の評価規準	評価方法		
				知（a）	思（b）	主（c）
1学期前半	数と式	式の計算 実数 １次不等式	a:公式等を用いて目的に応じた変形や結果を求めることができる。 b:文字への着目、置き換えなどの見方を工夫できる。不等式と等式の性質と比較して、解の意味を考察することができる。 c:具体的な事象の考察に式の計算を活用しようとしている。	定期考査	定期考査 ワーク シート	授業観察 ワーク シート
1学期後半	集合と命題	集合と命題	a:集合に関する用語・記号を理解し、証明することができる。 b:集合と命題を関連づけて日常の事象を数学的に考察できる。 c:集合と命題を関連づけて統合的に考察しようとしている。	定期考査	定期考査 ワーク シート	授業観察 ワーク シート
2学期前半	2次関数	２次関数 とグラフ ２次方程式 と不等式	a:２次関数の式やグラフの特徴が理解できる。２次関数のグラフを利用し、方程式・不等式の解を求めることができる。 b:２次関数の式・グラフ・条件を関連づけて方程式・不等式の解と対応させて考察することができる。 c:２次関数の値の変化や最大最小の値の活用から物理的分野との関係を考察しようとしている。	定期考査	定期考査 ワーク シート	授業観察 ワーク シート
2学期後半	図形と計量	三角比 三角形への応用	a:　正弦定理・余弦定理を用いて、三角形において辺や角の関係を表現できる。三角形の辺や角の値を求めることができる。 b:三角比相互に存在する関係について考察することができる。正弦定理・余弦定理を多面的に活用し、平面図形や空間図形の計量をおこなうことができる。 c:正弦定理・余弦定理を多面的に活用し、三角比の物理的分野との関係を考察しようとしている。	定期考査	定期考査 ワーク シート	授業観察 ワーク シート
3学期	データの分析	データの分析	a:代表値、５数要約、標準偏差などを求めることができる。 b:各数値・図を活用しデータの傾向をとらえ表現することができる。 c:　各数値・図を活用しデータの傾向をとらえ、事象の比較・考察に活用しようとしている。	定期考査	定期考査 ワーク シート	授業観察 ワーク シート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度